

日本語教育 2013 年后半年活動檔案

- 大、中學生日語短期暑假班開始通知
- 關於 2013 年 12 月日語能力測試(JLPT)報名的通知
- 關於舉辦“第八屆全國大學日語教師研修班”的通知
- 2013 年第 8 回全國大學日語教師研修會の実施報告
- 2013 年夏季全國中等教育教師研修會の実施報告
- 2013 年度第 3 回日語教育シリーズ講座の開催
- 2013 年度第 4 回日語教育シリーズ講座の開催

（開催地：長沙）

大、中学生日语短期暑假班开始通知



首次面向大、中学生日语短期暑假班开始报名啦!

使用日本国际交流基金会自主编制的教材,通过5天的入门学习能够学会并熟记假名的五十音图、了解日本高中生的学校、家庭生活,同时能够进行贴近生活的简单日常对话、清晰表达自己的意愿和流畅的与他人进行交流。

【日期】

2013年7月15~19日

时间: 上午10:00-12:00
下午13:30-15:30

【地点】

北京日本文化中心<http://www.jpfbj.cn/>

(地铁“国贸站”D出口。朝阳区建国门外大街SK大厦301)

【教师】中教

【费用】200元(含教材费,并于开课当日缴费)

【报名条件】①中学生、大学本科

②没学过日语的学生

③每次都能参加的学生

【报名方法】将报名信息内容发送至nihongo@jpfbj.cn
邮件件名务必注明“中学生学日语”

【报名信息】姓名/学校/年级/手机/电子邮件

【报名时间】即日起,额满为止。

【注意】

- 1、7月11日前后将发送报名成功的通知邮件,请注意查收!
- 2、缴费后不接受任何理由的退款!

关于2013年12月日本语能力测试(JLPT)报名的通知

2013年12月1日日本语能力测试网上报名将于2013年8月16日开始。有关报名、考试的相关规定和报名步骤，请仔细阅读报名网站的《考生须知》和《报名步骤》。

重要提示：中国大陆考生参加考试必须携带的唯一身份证件是有效的“中华人民共和国居民身份证”原件。根据《中华人民共和国居民身份证法》，任何居民无论是何年龄，均可向户籍所在派出所申领身份证。特别提醒未申领身份证或身份证已过期的青少年考生提前办理，以免影响考试。

网上报名分两个阶段进行。第一阶段考生仅进行个人信息注册和上传电子照片；第二阶段除考生可继续注册外，按N1、N2、N3~N5的顺序依次分别开放考试名额供已完成个人信息注册与上传电子照片的考生选择级别和考点，此阶段要求考生完成预定考位和支付考费等全部报名手续。

网上报名开通时间的具体安排如下

报名步骤		日期及时间	
		开通日期	截止日期
报名	注册	8月16日 14:00	9月10日 14:00 (逾期不予补报)
	N1	8月29日 14:00	
	N2	8月30日 14:00	
	N3~N5	9月2日 14:00	
打印准考证		报名结束后，报名网站《重要通知》中将公布下载打印准考证日期	12月1日
考试		12月1日 13:00入场	
领取成绩单		考试结束后3个月左右到达考点	

报名网站网址为 <http://www.etest.edu.cn> (教育网) 或 <http://www.etest.net.cn> (公网)。

关于举办“第八届全国大学日语教师研修班”的通知

为提高全国广大日语教师，特别是中青年日语教师的语言理论水平与教学实践能力，本中心和高等教育出版社将于2013年7月21日至25日联合举办“第八届全国大学日语教师研修班”。

报名办法等，详情请参阅附件。

[大学教师研修通知 \(PDF\)](#)

[大学研修报名表 \(DOC\)](#)

2013年4月26日
北京日本文化中心

実施概要

- 日程： 2013年7月21日～7月24日
会場： 中国吉林省長白山ホテル（長春市）
主催： 国際交流基金北京日本文化センター、中国教育部高等教育出版社
協力： 中国日語教学研究会
吉林大学
後援： 日本国駐瀋陽総領事館

全国から大学日本語教師155名が長春で開かれた研修会に参加しました。この研修は毎年、テーマに沿って展開しています。

今年のテーマは「文章—どう読むか、どう書くか、どう教えるか」でした。精読授業(総合日本語)について、また作文授業について、講義を聴くだけでなく、実際に授業をデザインしたり、「読者への配慮」とは何かを考えたり、内容がぎっしり詰まった3日間でした。

1. 研修会の目的

本研修会の目的は以下の三つです。

- (1) 日本語教育研究の動向を紹介する。
- (2) 日本語教授法、実践について考え、議論する場の提供。
- (3) 文化に関する情報提供、または研修参加者による情報交流を促進する。

以上の目的のもと、「日本語教育と研究を結ぶ、日本語教育研究と実践を結ぶ」を表題に、今年度のテーマは「文章—どう読むか、どう書くか、どう教えるか」でした。

2. 研修会概要

(1) 内容

① 翻訳の文章について 講師：徐一平（北京日本学研究中心）

翻訳コンテストの優秀作品や『雪国』など具体例を挙げながら、言語の翻訳可能性と文化の翻訳不可能性について総合的に話されました。

② 中学年大学生を対象とした文章表現の指導法 講師：宿久高（吉林大学）

書き手が意図することをできるだけ正確かつ明瞭に伝達できるように、表現形式の選択及び運用能力をつけるため基礎能力を発展させることが重要であることが例を挙げて述べられました。

③ 日本語作文授業の教育目標とあり方 講師：于日平(北京外国語大学)

時代の変化に伴う外国語学習の意義の拡大が必要であるという



視点から、日本語の文章力を「日本語運用力、日本に関する知識力、論理思考力」の総合能力の現われと位置付けて論じられました。

④ 中国人日本語学習者の作文に見る接続表現 講師：石黒圭（一橋大学）

序列を表す接続語に関して学習者が使用する特徴を述べた後、予告表現について言及し、その使用の有効性を語られました。まとまった内容を説明しようとするとき、書き出しに予告表現を置き、後続文脈の読み取りの方向性を決めることの必要性を述べられました。



⑤ 総合教科書における文章表現教育 講師：曹大峰(北京日本学研究中心)

この講義は、「総合日語ワークショップ」を導入の機能を果たす。総合教科書の中にどのように文章表現教育が取り入れられているか、『基礎日語総合課程』を例に教科書の理念、特徴を述べ、文章表現教育の設計例を取り上げられました。

⑥ 総合日語WS 進行：鈴木今日子（北京日本文化センター）

今回のテーマは「文章」ではあるが、実際に現場では「総合日本語」を担当し、その教え方に悩む教師が多いため、「総合日語WS」として、ペアまたは3名程度で教案を作成するというワークショップを計画しました。その手順については下記(2)に記載します。

⑦ 文章理解能力の伸ばし方と評価 講師：松浦、柳坪、鈴木（北京日本文化センター）

文章理解、読解能力という点から「文章との対話(批判的読み)」「読むことのレベルと評価」「読み方を育てる授業」という構成で話しをしました。JFスタンダードの紹介、第二言語習得の紹介も織り交ぜながら、学習者に気付かせる工夫の必要性について提言しました。

⑧ パネルディスカッション「作文授業の実際」

コメンター：石黒圭（一橋大学）進行：松浦
パネラー：翟东娜(北京師範大学)李丹蕊(天津外国語大学)周異夫(吉林大学)

作文の授業は日本人教師が担当することが多いようですが、中国人教師が担当するメリットもあるというメッセージを伝えつつ、実際に中国人教師が担当している場合についてパネラーから各校の実践活動について報告していただき、その後コメンターから確認などがありました。



⑨ 読者への配慮 講師：石黒圭(一橋大学) 進行：松浦

『よくわかる文章表現の技術II』(石黒圭著、明治書院)より、「メールの書き方について10通の例を抜粋し、読者への配慮に関して、その観点を参加者と共に考えました。

⑩ 私の日本語教育研究 講師：楊峻、小田珠生(北京語言大学)

「内容重視のグループワークの導入」について、実践活動の紹介とその分析結果を発表されました。

⑪ 論文の書き方 講師：石黒圭(一橋大学)

上記⑩との関連で、現在の日本の日本語教育研究論文が発表できる雑誌の紹介や、「査読者との対話としての投稿」という観点で、論文の書き方のコツを紹介していただきました。

⑫ 文章表現——「読む」を中心に 講師：周異夫(吉林大学)

総合日本語の中での「読み」、中上級段階での文学作品の「読み」について、吉林大学の教科書及び授業を例にとりながら「評価」「いかに読むか」「教材作り」にまで話しを広げて展開されました。

⑬ 総合教科書における文章理解 講師：林洪(北京師範大学)

総合日本語WSの結果を受けつつ、「読む」ことと他の技能の関連、批判的読みに関して、外国語教育の理論を紹介しながら話されました。

⑭ Light up Nippon(基金制作DVD鑑賞30分) 進行：守屋諒

国際交流基金が2012年に制作したDVDを昼休みの時間を利用して自由参加で鑑賞した。DVDを流す前に守屋職員から、このDVDの主旨、日本人にとって花火の意味の解説がなされました。

(2) 総合日本語ワークショップ詳細

3つの教科書から1課選択する（内容、レベルは近いものをこちらから指定）。

1日目 教案作成（45分程度、完成していないペアは翌朝提出）

ワークショップの流れ

- ▶ペアで1課分の教学デザインを考える。
- 1日目(8月22日)
- ▶①『新編日語』『総合日語』『基礎日語』から1課選択
- ▶②シート記入
- 2日目(8月23日)
- ▶シート提出 **8:30まで**
- ▶優秀教学デザイン6つ選出→発表者に通知(5時ごろ)
- 3日目(8月24日)
- ▶発表(6ペア 各15分)
- ▶投票(全員) → 最優秀教学デザイン(1ペア)選出
- ▶授賞式

本日(8月22日)の作業

- ▶ペアで1課分の教学デザインを考える。
 - 1日目(8月22日)
 - ▶①『新編日語』『総合日語』『基礎日語』から1課選択
 - ▶②シート記入(日本語で)
 - 1. 教学背景分析
 - 2. 教学目标
 - 3. 整体设计思路, 指导依据说明
 - 4. 教学重点, 难点分析
 - 5. 教学过程设计
 - 6. 教学评价设计
- 明日(8月23日)
8:30までに提出**

—結果—

提出された教案 『新編日語』 17 『総合日語』 24 『基礎日語』 18

優秀デザイン 『新編日語』 1 『総合日語』 1 『基礎日語』 4

最優秀賞 『基礎日語』 (尚一鷗;東北師範大学、王越;長春師範大学、楊陽;山東農薬大学)



教案を書く参加者



優秀賞受賞者と徐先生



修了証授与(林先生、徐先生、石黒先生)

時間	内容		備考
第8回大学日本語教師研修 2013.7.21-24			
21日(日)			
14:00-17:00	登録		
18:00-19:30	浦和同窓会		
22日(月)			
8:00-8:30	開幕式(記念写真)		
8:30-9:40	徐一平先生ご講義	「文章表現と翻訳」	
9:40-10:50	宿久高先生ご講義	「文章表現の指導」	
11:00-12:30	于日平先生ご講義	「作文授業の目標のあり方」	
12:30-14:00	昼食、休憩		
14:00-15:25	石黒先生ご講義	「中国人日本語学習者の作文に見る接続表現」	
15:35-16:45	曹先生ご講義	「総合教科書における文章表現教育」	WS関連講義
16:45-17:50	総合日本語WS	グループ作り 課題	授業設計
18:00-19:30	懇親会		
23日(火)			
8:30-10:00	北京日本文化センター講義		
		「文章理解能力の評価と伸ばし方」	
10:10-12:00	パネルディスカッション?	東畑先生(30分)李丹窓先生(25分)	司会 松浦
	「文章表現指導」	周先生(25分)石黒先生	討論30分
12:00-14:00	昼食、休憩		ws課題提出
14:00-15:15	文章表現ws	松浦進行、石黒先生(コメント)	
		「読者への配慮」	
15:25-16:10	私の日本語教育研究	楊峻先生 小田珠生先生	
16:10-17:00	石黒先生ご講義	「論文の書き方」	
			発表者決定、通知
24日(水)			
9:00-11:00	総合日本語WS	発表6組(1組20分)	発表
11:00-11:30	投票		
11:30-12:00	講評		
12:00-14:00	昼食、休憩		
14:00-15:25	周異夫先生ご講義	「文章表現--読むを中心に」	
15:35-16:30	林洪先生ご	「総合教科書における文章理解」	WS関連講義
16:30-17:00	修了式	優秀賞1組発表	優秀賞

24日1時~Light up Nippon 自由参加鑑賞

みなさんの声

- ・他校の教師と交流ができた。新しい教授方法を習うことができた。新しい教学理論が触れられる。とてもいい勉強になると思う。(23人)
- ・石黒圭先生の講義を通じて、文章表現というのは何か、読者への配慮とは何かについてはっきりすることができた。JFスタンダードを利用してCan-doを作ることについて改めて考えることができた。他校の教師と精読科目ヒアリング科目の教授法と使っている教科書についての討論もできた。
- ・先生方のご発表を拝聴し、大変勉強になりました。自分で考えて、教案を作ってみて、それから先生方のご講評を伺い、勉強になりました。
- ・日本語教育の分野で優れた先生方と専門家のご講義を聞くことができる。(5人)
- ・たくさんの他校の教師との交流や情報交換ができました。実力派の専門家の演講から勉強になったことが多いです。「文章表現」について改めて認識しました。
- ・何年間ずっと日本語教育をやっていたんですが、教師として学習、交流という考えはずっとありますが、なかなかチャンスがありません。今回の研修会を通して、いろいろ勉強になりました。
- ・ちゃんとしたテーマの下で、教授法や教育理念などを聞かせてもらうことができ、大変満足した感じでした。それに、他校の若い先生といろいろ交流ができ、その面でも満足した。
- ・有名教授の素晴らしい講義はこれからの我々の学生への教えことに非常に役に立ちます。自立した学習方法は昔、聞いたこと、考えたことはありましたが、今回の研修を通して、その必要性、メリットがより明白に分かるようになり、これからはこのような学習方法に挑戦しなければならない緊迫感を感じま

した。

- 研修内容が豊富で、他の研修会と比べて、レベルが高いです。他校の教師との交流がありますが、少ないです。それはすごく残念だと思っています。
- Light up Nipponを見て、とても感動した。これを通して、日本の若者のエネルギーを感じた。日本を愛している若者の力が強いと感じる。
- 私はこの研修会を四回目に参加したので毎回ごとによくなってきていると思います。できれば参加者と講演者の交流時間、もうすこし増やすことができればいいなあと。

このほかにもいろいろな要望をいただきました。

有難うございました！

来年に生かしたいと思います！



テーマ：タスクと目標のつながりを考える



日程： 2013年7月31日～8月3日

会場： 人民教育出版社（中国・北京市）

主催： 国際交流基金北京日本文化センター、人民教育出版社課程教材研究所

テーマ： タスクと目標のつながりを考える

内容： 新しく改訂された人民教育出版社の教材『日語 8年級』を用いて参加者が教案を作成しました。教案作成の際には、テーマである「タスクと目標のつながり」を意識しました。また、テーマに関する講義の他、徐々に学生の側に立って日本語授業を受ける「日本語授業体験」や、JICAボランティア有志による「日本文化体験」などのプログラムもありました。2013年夏には全国から日本語教師49名が参加しました。

プログラム：

『日語8年級』の改訂について

張敏先生、李家祥先生（人民教育出版社）

2011年に新しい課程標準が発表され、それに合わせて教科書の改訂が進んでいます。今回は新しい課程標準の特徴とともに、『日語 8年級』の特徴について、出版社の張敏先生と李家祥先生からお話いただきました。

テーマ：タスクと目標のつながりを考える

テーマ「タスクと目標のつながりを考える」には以下のプログラムを実施しました。

(1) テーマに関する講義

テーマに関する講義① 翟東娜先生（北京師範大学）

テーマに関する講義② 松浦上級専門家（国際交流基金北京日本文化センター）



8年級教科書の編集に関わっていらっしゃる北京師範大学の翟東娜先生からは、「タスク」とはどのようなものかについて講義がありました。問題例として、今回改訂された8年級教科書の他に、高校生用の『日語7』も題材として取り上げられました。

また、北京日本文化センターの松浦上級専門家は、タスクについて一般的概念を確認した後、本センターで主催している高校生プロジェクトワークを例に、その中での学生の学びを紹介しました。また、高校用の『日語』で扱う作文関係のタスクを見ながら、「タスクと目標のつながり」について考えました。



講義風景

(2) 日本語授業体験

日本語授業体験① 清水昭子先生（人民教育出版社／JICAシニアボランティア）「インタビュー」

日本語授業体験② 鈴木今日子専門家（国際交流基金北京日本文化センター）「ロールプレイ」

専門家が授業を実施、参加者が学生側に立って日本語授業を受ける「日本語授業体験」を今回も実施しました。目的は、①日本語力の向上への意識づけ、②教授法の体験です。内容は『日語』から題材をとり、「インタビュー」（清水）と「ロールプレイ」（鈴木）を行いました。久しぶりの学習体験に、先生方もとても生き生きしていました。



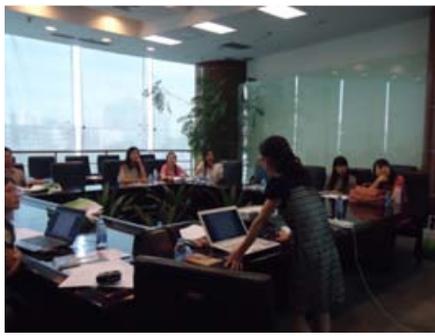
インタビュー活動の様子

教案作成

夏の中等教師研修の最も大きな活動は班に分かれての教案作成です。新しく改訂された『日語』を使って、教案を作成しました（高校生用の教案は高校用『日語 7』を使用）。教案を書くこと自体は個人作業ですが、今年は特に「話し合い」や「教案の共有」、そして「講師からのフィードバック」を心がけました。そしてまた、テーマである「タスクと目標のつながり」を意識し、「自身の教案に書かれているのはタスクと言えるだろうか」「タスクと目標と評価には一貫性があるだろうか」「この夢のようなタスクを実際に教室で実現するにはどうしたらいいだろうか」と、議論や推敲を重ねました。結果、班内で非常に活発な議論が繰り返され、教案もよいものに仕上がっていきました。



教案作業の様子



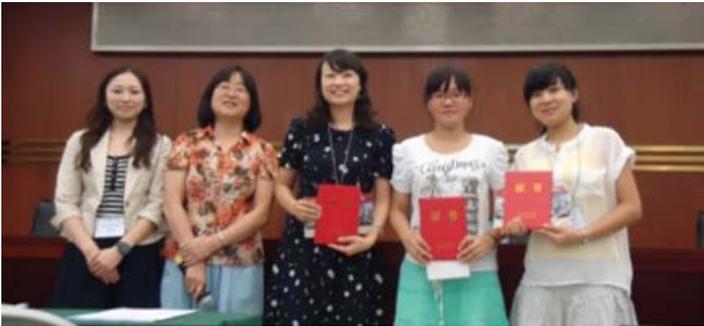
話し合いのプロセスを重視しています

最後は、全体の中から以下三名のものを優秀教案として選び全員で共有、講師からコメントをしました。

高校担当教師：王美玲（常州旅遊商貿高等職業技術学校）

中学担当教師：施洋洋（大連実験中学）

陳燕（深圳外国語学校）



優秀教案に選ばれた先生方と

日本文化体験

JICA青年海外協力隊ボランティアの有志3名による「日本文化体験」は、毎年楽しみにしている先生の多い人気プログラムです。当日は「授業で使えるゲーム」「アニメと浮世絵ーバラバラ漫画を作ろう」「ソーラン節（踊り）」の三点でした。どのプログラムも丁寧に準備がされていて、参加した先生方からは「楽しい」「もっと体験したい」「学校で帰って生徒にも伝えたい」との声が寄せられました。



お手伝いくださった方は以下の三名です。ありがとうございました。

大月嘉恵（尚志市朝鮮族中学）

櫛田ひかる（鄂爾多斯市第三中学）

宮崎さとみ（武漢実験外国語学校）

その他の講義

2013年3月に出版された『艾琳学日语 エリンが挑戦！にほんごできます。』（『DVDで学ぶ日本語 エリンが挑戦！にほんごできます。』中国版）の紹介を鈴木専門家が行いました。内容は教材概要及び試用報告です。人民教育出版社の編集担当者である李家祥氏に概要をお話いただいた他、研修に参加していた試用協力者2名（中国人民大学附属中学、北京外国語大学附属中学所属）にも感想を報告をいただきました。

アンケート記述から

- ・以前はタスクについてよくわかりませんでした。今回の研修を受けてわかりました。（多数）
- ・今後はタスクと目標のつながりを意識しながら自分の授業を進めていきたいと思えます。（多数）
- ・今回のテーマは大変現実に近く、授業に活かすことができます。（多数）
- ・他の先生との交流ができました。（多数）
- ・同じ仕事をしている皆さんに会って、毎日している授業について検討して、とてもよかったです。

- ・今まで気づいていなかった内容に気づき、自分の授業の不足点に気づきはじめました。そして視野を広げることができ、新しいアイデアが湧いてきて、とても役に立つと思います。
- ・先生方は皆熱心で、知識が豊富であり、スケジュールはよく組まれていてとても勉強になりました。
 - ・JICAの先生の授業が素晴らしかったです。
- ・日本文化の授業―「浮世絵とアニメ」のような授業はすごくおもしろくて、自分の授業で使いたいと思いました。そして、こういうチャンスがあったらまた参加したいと思います。
- ・全国各地で交流会や研修会などやってほしい。

2013年全校中等教育日本語教師研修会

2013年7月31日（水）～8月3日（土）

於：人民教育出版社

日程表

日時			プログラム	担当
2013/7/31（水）	午前	9:00-9:30	開会式・写真撮影	張敏
		10:00-11:30	講義「8年級教科書の改訂について」	李家祥・張敏
	午後	14:00-17:00	テーマに関する講義① テーマに関する講義②	翟東娜 松浦
		17:00-17:15	事務連絡	張玉潔
		17:30-	懇親会	
2013/8/1（木）	午前	9:00-12:00	班活動① 事前課題FB 教案作成準備 教案作成	各班担当講師
	午後	14:00-16:20	日本語授業体験①②（各60分）	清水・鈴木
2013/8/2（金）	午前	9:00-12:00	班活動② 教案FB 教案改善	各班担当講師
	午後	14:00-14:50	班活動③ 教案共有①	各班担当講師
		15:00-15:45	『艾琳学日语』（中国版エリン）紹介	鈴木・李家祥
		16:00-17:00	班活動④ 教案共有② 優秀教案決定 班内振り返り	各班担当講師
2013/8/3（土）	午前	9:00-12:00	日本文化体験	JICA+清水

午後

14:00-16:00

最優秀教案発表

最優秀教案共有

ふりかえり

修了式

2013年度第3回日本語教育シリーズ講座の開催

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育学シリーズ講座2013 第三回講座

2013年9月8日（日）午後2：00～5：00

東京海洋大学大学院海洋技術研究科教授 池田玲子先生

早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 館岡洋子先生 ご講演

「なぜ協働するのか—グローバル化の中での日本語教育のあり方—」

～講師からのメッセージ～

「協働学習」は今や日本語教育の世界では珍しくなくなってきました。日本では、多くの日本語クラスで協働の形態で授業が展開しています。では、なぜ協働するのでしょうか。

今や社会はグローバル化し、大学教育においてもグローバル社会で活躍できる人材を育てることが急務となっています。グローバル化の今後に向けて、日本語教育においては何ができるのか。講演者らは、協働学習にその可能性を感じています。

本講演では、グローバル化社会の今後にむけて日本語教育は何ができるのかという視点で協働学習を捉え直してみたいと思います。一口に協働といっても、グループを作って活動すれば、すぐそれが効果的な学びとなるといってもありません。協働が広がってきた今、改めて協働学習を再考したいと思います。

時間： 2013年9月8日（日）午後2：00～5：00

講師： 東京海洋大学大学院海洋技術研究科教授 池田玲子先生

早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 館岡洋子先生

池田玲子、館岡洋子『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために』

ひつじ書房

池田玲子『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房

館岡洋子『ひとりで読むことからピア・リーディングへ

—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会

場所： 国際交流基金 北京日本文化センター ホール

北京市朝阳区建国门外大街甲6号SK大厦3层301

地下鉄「国贸」駅D出口（徒歩2分）※地図→http://www.jpfbj.cn/about_3.asp

参加費： 無料（講演後、先生を囲んで、会費制自由参加の食事会を設けます。参加ご希望の方は申し込み時にお知らせください。会費は100元以下の予定です。）

使用言語： 日本語

申込方法： 来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号を明記の上、9月5日(木)までにメールでお申し込みください。メールの件名は「9月8日講座」をお願い致します。場所の都合上、定員に達した場合はお断りすることもあります。

宛先：nihongo@jpfbj.cn 件名：9月8日講座

国際交流基金 北京日本文化センター <http://www.jpfbj.cn/>

電話：010-8567-9511 ※土、日は北京日本文化センターの事務所はお休みです

2013年度第3回日本語教育シリーズ講座の開催

国際交流基金北京日本文化センター 日本語教育学シリーズ講座2013 第三回講座

2013年9月8日（日）午後2：00～5：00

東京海洋大学大学院海洋技術研究科教授 池田玲子先生

早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 館岡洋子先生 ご講演

「なぜ協働するのか—グローバル化の中での日本語教育のあり方—」

～講師からのメッセージ～

「協働学習」は今や日本語教育の世界では珍しくなくなってきました。日本では、多くの日本語クラスで協働の形態で授業が展開しています。では、なぜ協働するのでしょうか。

今や社会はグローバル化し、大学教育においてもグローバル社会で活躍できる人材を育てることが急務となっています。グローバル化の今後に向けて、日本語教育においては何ができるのか。講演者らは、協働学習にその可能性を感じています。

本講演では、グローバル化社会の今後にむけて日本語教育は何ができるのかという視点で協働学習を捉え直してみたいと思います。一口に協働といっても、グループを作って活動すれば、すぐそれが効果的な学びとなるといってもありません。協働が広がってきた今、改めて協働学習を再考したいと思います。

時間： 2013年9月8日（日）午後2：00～5：00

講師： 東京海洋大学大学院海洋技術研究科教授 池田玲子先生

早稲田大学大学院日本語教育研究科教授 館岡洋子先生

池田玲子、館岡洋子『ピア・ラーニング入門—創造的な学びのデザインのために』

ひつじ書房

池田玲子『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 プロセス重視のレポート作成』ひつじ書房

館岡洋子『ひとりで読むことからピア・リーディングへ

—日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』東海大学出版会

場所： 国際交流基金 北京日本文化センター ホール

北京市朝阳区建国门外大街甲6号SK大厦3层301

地下鉄「国贸」駅D出口（徒歩2分）※地図→http://www.jpfbj.cn/about_3.asp

参加費： 無料（講演後、先生を囲んで、会費制自由参加の食事会を設けます。参加ご希望の方は申し込み時にお知らせください。会費は100元以下の予定です。）

使用言語： 日本語

申込方法： 来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号を明記の上、9月5日(木)までにメールでお申し込みください。メールの件名は「9月8日講座」をお願い致します。場所の都合上、定員に達した場合はお断りすることもあります。

宛先：nihongo@jpfbj.cn 件名：9月8日講座

国際交流基金 北京日本文化センター <http://www.jpfbj.cn/>

電話：010-8567-9511 ※土、日は北京日本文化センターの事務所はお休みです

2013年度第4回日本語教育シリーズ講座の開催（開催地：長沙）

国際交流基金北京日本文化センター・湖南大学共催

日本語教育学シリーズ講座2013 第四回講座

2013年9月14日（土）

第一部 午前9：30～11：30、第二部 午後13:30～15:00

プリンストン大学名誉教授 牧野成一先生 ご講演

第一部「**Oral Proficiency Interview (OPI)**は話す能力をどうやって測るのか」

第二部「**文化能力**をどうやって測るのか」

～講師からのメッセージ～

「学習者の日本語口頭能力をどのように評価したらいいか、日本語教育の中で日本文化の能力を測るとすればどのように測ったらいいか。この二つの問題については是非考えて来てください。」

講師の牧野成一先生は、早稲田大学で英文学を、東京大学で言語学を学ばれ、1964年にフルブライト給費留学生として渡米し、イリノイ大学にて言語学博士号を取得されました。1968年から1991年春までイリノイ大学にて日本語と言語学の教鞭をとられ、1991年秋からプリンストン大学東洋学科教授として日本語・言語学を教えられました。ご著書は『くりかえしの文法』（大修館）、『ウチとソトの言語文化学－文法を文化で切る』（アルク）、A Dictionary of Basic/Intermediate/Advanced Japanese Grammar（三部作、共に筒井通雄氏と共著）（ジャパンタイムズ）など多数あり、現在はプリンストン大学の名誉教授を務めていらっしゃいます。

今回は、第一部「Oral Proficiency Interview (OPI)は話す能力をどうやって測るのか」、第二部「文化能力をどうやって測るのか」の二部立てでご講演いただきます。

時間： 2013年9月14日（土）第一部 午前9：30～11：30、第二部 午後13:30～15:00

講師： プリンストン大学名誉教授 牧野成一先生

場所： 湖南大学 復臨舎ホール（201室）
湖南省長沙市岳麓区麓山南路3号

地図 <http://1000.hnu.cn/zhuanti/2012/map/index>

参加費： 無料

使用言語： 日本語

申込方法： 来場ご希望の方は、氏名・所属先・携帯電話番号を明記の上、9月12日(木)までにメールでお申し込みください。メールの件名は「9月14日講座」をお願い致します。会場の都合上、定員に達した場合お断りすることもあります。

宛先： tekisai@126.com 件名：9月14日講座